平成30年12月25日

平成３０年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３０年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成30年4月17日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，理科，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語Ａ　１３８人　　国語Ｂ　１３８人

②　数学Ａ　１３７人　　数学Ｂ　１３７人

③　理科　　１３７人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

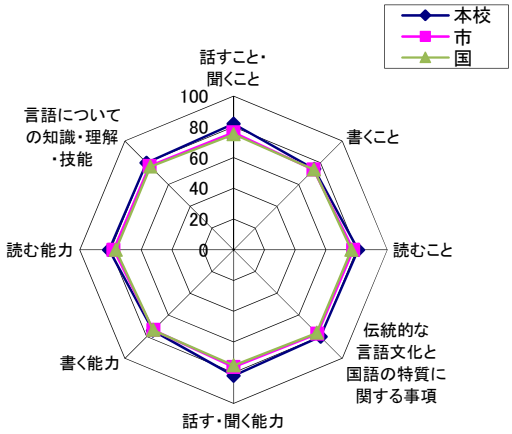
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

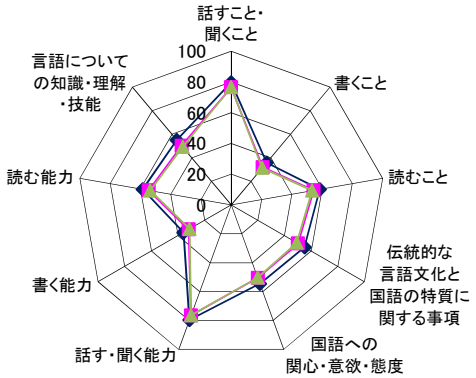
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	81.9	76.4	75.2
	書くこと	74.3	73.7	73.9
	読むこと	81.0	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.0	77.2	76.5
観点	国語への関心･意欲･態度			
	話す･聞く能力	81.9	76.4	75.2
	書く能力	74.3	73.7	73.9
	読む能力	81.0	78.0	76.7
	言語についての知識･理解･技能	80.0	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	79.7	76.5	76.6
	書くこと	35.9	31.9	31.3
	読むこと	58.5	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	55.1	50.2	49.2
観点	国語への関心･意欲･態度	54.6	50.6	50.3
	話す･聞く能力	79.7	76.5	76.6
	書く能力	35.9	31.9	31.3
	読む能力	58.5	54.5	53.5
	言語についての知識･理解･技能	55.1	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

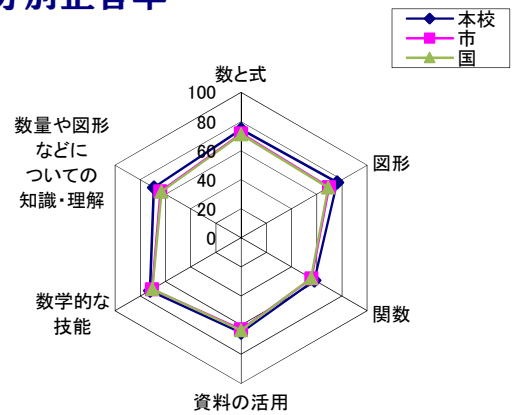
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○スピーチに関する設問では、話の論理的な構成や展開に注意して聞く問題で正答率が9割以上であった。 ○調査結果をもとにした発表から質問を考える問題では、9割以上の正答率が見られた。 ●話し合いの話題や方向を捉えたり、話し合いの方向に沿って発言したりする力を問う問題では、正答率が8割に届かなかった。 ●相手の質問を踏まえ発表内容をまとめる問題では、正答率が6割に届かなかった。	・話し合いを発展させる建設的な意見の出し方や、話し合いの方向性を正しく捉えるためのスキルなどを実践を通して指導していく。 ・聞き手を意識して発表したり、聞き手からの意見や質問をその後の発表に生かしたりする「話すこと」の指導を行う。
書くこと	○文章を構成する内容やその順序について考える問題では、9割近い正答率が見られた。 ●4領域の平均正答率を見ると、「書くこと」のみ8割に届いていない。 ●文章の内容を目的に沿って要約する問題では、正答率が2割に届かなかった。 ●物語のあらすじを相手に伝わるように的確にまとめる問題では、正答率が6割に届かなかった。	・「書くこと」の単元以外でも、短時間でできる「書くトレーニング」を実践する。 ・体験文や意見文以外に、文章を要約したり調べたことを紹介したりするような、様々な文章に取り組ませる。
読むこと	○場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を正しく捉える問題では、9割近い正答率が見られた。 ●文章の展開に即して情報を整理し内容を捉える問題では、正答率が7割に届かなかった。 ●目的に応じて文章を読み、必要な情報を捉える問題では、正答率が2割に満たなかった。	・文章構成を図式化して示すなどして、構成や段落どうしの関係を的確に捉えるための指導を重点的に行う。 ・必要に応じてグループ活動を取り入れ、意見を交換しながら考えを深めていく指導を行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を読む問題は、出題された3問すべて正答率が97パーセントを超えている。 ○適切な敬語の使い方を問う問題では、正答率が9割を超えていた。 ●漢字を書く問題では、問題によっては正答率が6割に届いていない。 ●「折り合いをつける」「ひとえに」など、語句の意味を正しく理解し文脈の中で適切に使う問題において、正答率が7割に届かず、課題が見られる。	・漢字の読み書きについては、これまで同様補助教材を活用した漢字テストを実施していく。 ・敬語や文法については、基本的な問題だけでなく応用問題にも対応できるよう、復習に力を入れる。 ・慣用句・四字熟語に関しては3年1学期の学習内容だが、知識の定着が十分ではないので小テストなどを実施し向上を目指す。

宇都宮市立一条中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

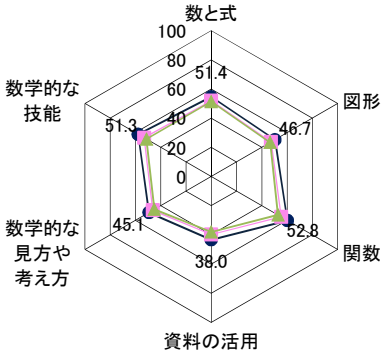
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	74.6	71.7	71.1
	図形	76.2	69.7	69.1
	関数	58.2	55.8	55.5
	資料の活用	65.0	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	72.3	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	69.2	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	54.7	52.0	51.4
	図形	50.4	47.3	46.7
	関数	60.3	55.4	52.8
	資料の活用	43.4	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	49.3	46.3	45.1
	数学的な技能	57.8	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

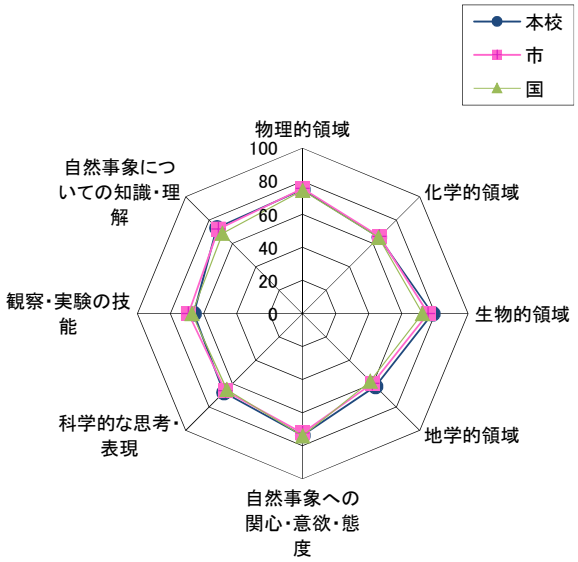
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○【数学A】市の平均正答率を2．9ポイント上回っており、良好である。特に、絶対値の意味、単項式どうしの除法、比例式を解く問題では正答率が90%を超えている。 【数学B】市の平均正答率を2．7ポイント上回っており、良好である。問題場面における考察の対象を明確に捉える問題では正答率が90%を超えている。 ●【数学A】指数を含む正負の計算では、県の平均正答率を3．1ポイント下回っている。 【数学B】計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明する問題では県の平均正答率を2．5ポイント下回っている。	・説明する場面において、数学的な表現を適切に用いる必要性について考えさせる。知識や技能をみにつける過程で、日常的な表現を用いて理解しやすくすることが数学的な表現を適切に用いることに対する弊害にもなりうる。日常的な表現は補助的な役割にとどめ、数学的な表現の重要性を理解させる。
図形	○【数学A】市の平均正答率を6．5ポイント上回っており、良好である。特に、半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している問題では正答率が90%を超えている。 【数学B】市の平均正答率を3．1ポイント上回っており、良好である。全問ともに県の平均正答率を3．3～6．5ポイント上回っている。	・図形に関する基礎基本、技能は身についている。身近な事象等に数学を発見する体験を授業に多く取り入れることを継続し、更に力を伸ばしていく。
関数	○【数学A】市の平均正答率を2．4ポイント上回っており、良好である。特に、比例における比例定数の意味の理解、座標平面上に点の位置を示す問題では正答率が70%を超えている。 【数学B】市の平均正答率を4．9ポイント上回っており、良好である。グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈する問題では正答率が90%程度であった。 ●【数学A】一次関数について、xの値の増加に伴うyの増加量を求める問題では、県の平均正答率を2．4ポイント下回っている。	・基本的な関数の知識は身についており、表・式・グラフに表すことができるが、それぞれを関連付けて活用する場面を授業の中で増やしていくことで、より理解を深めていく。
資料の活用	○【数学A】市の平均正答率を2．4ポイント上回っており、良好である。特に、最頻値、中央値、確率の問題では正答率が70%を超えている。 【数学B】市の平均正答率を3．6ポイント上回っており、良好である。 ●【数学A】多数回の試行の結果から得られる確率の意味の問題では、県の平均正答率を2．7ポイント下回っている。また、全ての問題において県の正答率を上回っている。	・多数回の試行の結果から得られる相対度数の意味を理解したり、どのように活用するのかを考えたりする授業を行う。

宇都宮市立一条中学校第３学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	75.0	75.7	74.4
	化学的領域	65.4	65.8	65.0
	生物的領域	78.6	75.9	72.5
	地学的領域	62.3	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	73.7	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	67.4	66.0	64.9
	観察・実験の技能	65.9	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	73.4	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○領域としては市の平均とほぼ同じであるが、科学的思考・表現については、4問中2問が90%をこえており、これらについては十分満足できる状況にある。 ●オームの法則をもとに抵抗を計算する問題では、正答率が50%台となっており、公式を利用して計算する力が不十分と考えられる。	・公式の利用については、公式の意味するところをしっかり理解させるとともに、様々な問題を解くことにより、公式の利用の仕方を身につけさせる。
化学的領域	○領域全体としては市の平均とほぼ同じであるが、化学変化と熱の分野では正答率が70～80%台となっており、十分満足できる状況にある。 ●濃度に関する問題について、県の平均よりも低くなっており、濃度の概念の理解や濃度の計算力が不十分と考えられる。	・濃度に関しては、割合の概念の理解が不足していると考えられるので、割合とはどんなことかを丁寧に説明し、しっかり理解させる。また、計算については練習問題をこなすことにより身につけさせる。
生物的領域	○領域全体としては、市の平均を2.7ポイント上回っており、6問中4問で正答率が80%をこえている。特に、知識・理解については2問とも80%をこえており、十分に満足できる状況にある。 ●科学的な思考・表現について4問中2問で60%台にとどまっており、十分に満足できる状況とは言えない。	・実験の計画を考える問題について、正答率が60%台であったので、授業の中で、自分たちで実験の計画をする回数を増やすことと、教科書に出ている実験について、何のためにどのような方法で実験を行うのかをよく考えてから取り組ませる。
地学的領域	○地震に関する分野については、3問中2問で正答率が80%をこえており、十分に満足できる状況にあるといえる。 ●天気に関する分野では、3問とも60%台以下で、県平均をこえてはいるが、満足できる状況とは言えない。	・天気については身近な現象であることから、できるだけ普段の生活に結び付けるようにしながら理解させる。また、学習したことを現実の現象と結び付けて考える習慣を身につけさせる。

宇都宮市立一条中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「学校の規則を守っていますか」という問いに対し、本校3年生の肯定的回答は95．7%だった。事実、毎日の学校生活でもほとんどの生徒が時間のきまりや身だしなみなどのきまりを守って行動している。修学旅行のような学校行事でも、きまりを意識した自覚ある行動がほとんどの生徒において見られた。これから卒業期を迎えるに当たり、生徒の意識の一層の向上を図りたい。
○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対し、本校3学年生徒の98．6%が肯定的に回答している。これには本校の教育だけでなく、小学校からの継続的な道徳教育や、家庭や地域社会でのしつけ等が功を奏していると思われる。このような生徒の意識を受け、今後もいじめに対しては毅然とした態度で指導を徹底していきたい。
●「新聞を読んでいますか」という問いに対し、本校3年生徒の肯定的回答は14．5%であった。これは栃木県の割合としては平均的な数値ではあるものの、決して高いとは言えない。図書室でも生徒の最も目に触れる場所に置いてあるにもかかわらず、なかなか読まれていないのが現状である。対して「地域や社会で起こっていることに関心がありますか」という問いに対しては、本校生徒の肯定的割合は76．1%に上っており、これは県や国の平均値と比べると10ポイント以上高い数値である。ぜひ、地域や社会の出来事を知る手立ての一つとして新聞を活用させたい。今後は、生徒が興味を抱きそうなところをピックアップして掲示したり、新聞を活用した授業を行ったりなど、新聞に親しませる指導に取り組んでいく。
○数学についての11の質問で、本校3年生徒の61．6%が「数学を好き」、91．3%の生徒が「数学の勉強は大切」と考えている。また、79．8%の生徒が「数学の授業の内容は分かる」と答え、90．5%の生徒が「数学ができるようになりたい」と考えている。さらに、「数学の問題の解き方が分からないときには、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いに対して本校3年生徒の肯定的回答の割合は83．4%で県や国の平均値より10ポイント以上高く、「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」という問いに対しては本校3年生徒の肯定的回答の割合は89．2%で県や国の平均値より5ポイント以上高い数値を示している。このように、本校3年生徒が「好き・嫌い」にかかわらず数学を大切な教科と位置づけ、分かるようになりたいと切実に考えて授業にもまじめに取り組んでいることが見て取れる結果となった。生徒の願いを真摯に受け止め、学力向上に向けて真剣に取り組みたい。
●理科についての14の質問で、本校3年生徒の67．4%が「理科を好き」、68．9%が「理科の勉強は大切」と考えている。数学と比較すると、理科の方が「好き」の割合が高いものの、教科として重要視しているのは圧倒的に数学であることが分かる。県や国の平均値からも同様の傾向が見られるが、本校ほどその差は顕著でない。さらに「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」という問いに対して肯定的回答の割合は59．6%であり、数学についての同様の問いでは77．6%であったことと比較すると、その差は大きい。数学と理科と、どちらの方がより「実学」に近いかを論議することは重要ではないとしても、学びの場面場面で生活にどのように活用させるか考えさせながら指導していくことは、生徒の科学的な視野を広げるために重要であると考える。
○「1・2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」という問いに対して、本校3年生徒の肯定的回答の割合は71%で、県・国の平均値と比較して10ポイント以上高い。国語の授業で行った「自分が友達に勧めたいものを資料を基に発表する」授業が強く印象に残っていたものと思われる。今後も生徒の意欲を引き出す発表の活動を国語以外にも取り入れていきたい。

宇都宮市立一条中学校（第３学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○効果的な授業の振り返りを行い，家庭学習への意欲を高めさせる。	○「まとめ・振り返り」を意識した授業づくりを行う。	「家で，学校の授業の予習・復習をしていますか」に対する肯定割合は79.0%で，県平均67.5%を大きく上回っている。「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」という項目が今年度はないため，昨年度の肯定割合72.2%と比較はできないが，授業の予習・復習を8割近い生徒が行っていることから，授業の「まとめ・振り返り」が家庭学習の意欲向上につながっていると考えられる。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○「新聞を読んでいますか」という質問に対する肯定割合は14.5%で県平均と差はないが，およそ7人に1人という割合はとても低く，十分であるとはいえない。	○NIEへの取り組みを推進し，新聞を身近な情報源の一つとして活用する意識を高めさせる。	各教科および領域の授業において，新聞記事を教材の一部に活用する試みを意識的に行う。